

出口 汪著 Hiroshi Deguchi

頭がよくなる！  
大人の論理力ドリル

Forest  
2545  
Shinsyo

さあ、これから論理力トレーニングの冒険に出ましよう！

文豪の論理的な文章構成の妙をナゾ解きながら、

頭を論理的に使う能力を「論理エンジン」で鍛える冒険です。

## プロローグ

### なぜ論理力が頭を鍛えるのか？

世の中には頭がいい人がいるけれど、それは生まれつきのものだと、思っていないかもしれませんか？

「頭がいい」は、生まれつきではありません。

「頭がいい」とは、高度な論理力を持った人のことをいいます。そして、論理力は簡単な言語処理能力トレーニングによって、誰でも飛躍的に高めることができます。もちろん、生まれながらの言語処理能力には個人差があり、しかも、その言葉を使う環境も一人ひとり違います。

でも、言語処理能力は訓練によって飛躍的に高めることが可能なのです。

そのために生み出された、まったく新しいシステムの教材が「論理エンジン」です。私たちは言葉を使ってものを考えます。言葉を使わずにものを考えることも、感じることもできません。

そして、その言葉は日本語なのです。

私たちはあらゆるものをいったん言語に置き換え、認識し、整理します。もちろん、脳がそういった働きをつかさどっているのです。

規則にしたがって、言葉を速く正確に使えれば、「論理力」となります。言葉の微妙な使い方が巧みになれば、豊かな「感受性」となります。

そうした言語処理能力は、先天的なものではなく、実は後天的な比重が大きいのです。

なぜなら、私たちは毎日毎日、それも生涯にわたって言葉を使い続けるのですから。それならば、その言語処理能力を高めることが、あなたの脳力をアップさせることは間違いありません。

## ★全国で成果を出している論理エンジンとは？

論理エンジンとは、誰でも高度な論理力を獲得し、感性を磨くための言語プログラム・教材で、現在私立の高校を中心に250校以上が正式採用し、めざましい成果を上げています。

日本語の規則に基づいて、一つひとつ問題を解いていくうちに、自ずと論理力を強化し、感性を磨き上げることができるのです。

本書は、その論理エンジンの考え方に基づいています。

真剣に取り組めば、確実に成果が得られると実証済みのトレーニングを、今回はビジネススマン向けに新たに作り直しました。

本書を読み終わったとき、あなたの論理力や感性は見違えるほど違ってきます。

あなたは、困難な人生の荒波を乗り越えるための最強の武器を手にしたことになるのです。

## ＋能力を最大限に発揮させる道具とは？

私たちは普段から日本語を使っています。でも、どれだけ言葉を意識して使いこなしているかというと、たいていの人はあやしいものですね。

今日一日の言葉の使い方を振り返ってみてください。

「ムカツク」「ビミョウ」「ウザイ」など、感情語ばかりを使う、言葉を何となくあいまいに使って、雰囲気だけでコミュニケーションを図る……。

そういった言語生活の中で、しだいに頭の歯車がさびつき、スムーズに回転しなくなっているのです。

車でも時折メンテナンスが必要なように、言語訓練をすることで、頭の回転をスムーズにすることが、あなたの頭のためには非常に有効なのです。

さらに、普段使っていない頭の使い方の訓練をすると、あなたの頭脳の潜在的な能力がどんどん引き出されていきます。

論理力が身につくと、次のような能力がどんどん開花していきます。

- ① 文章を論理的に読み、理解、整理することが楽になり、速読にも威力を発揮。
- ② 人の話のすじみちを、瞬時に理解できるようになり、のみこみが速くなる。
- ③ 読み取ったことを論理的に考えることによつて、思考能力が身につく。
- ④ 自分の考えをすじみち立てて話したり、論理的な文章を書けるようになる。

もちろん、英語も数学も論理と無関係ということはありません。あなたはあらゆる場面で、論理力を発揮するようになるのです。

これが俗にいう「頭がよくなる」ということなのです。

## ＋簡単トレーニングで論理力が鍛えられる

私たちは日本語の規則など考えずに、自然に言葉を使っています。

言葉の論理的な使い方は、習熟しなければ何の意味もありません。

論理的に頭を使おうとしている限りは、その人は論理力が習熟していないと考えるべきなのです。

意識しなくても、人の話のすじみちが理解でき、すじみちを立てて考え、すじみちを立てて説明したり、文章を書いたりする力、それが論理力で、論理エンジンはそうした力を無理なく養成するためのシステムです。

そのために、さまざまな工夫がしてあります。それと同時に、誰もが習熟するために必要なだけの膨大な問題量を用意してあるのです。

論理エンジンは、「理解した」ではなく、いかに「習熟したか」が大切なのです。だから、トレーニングをする必要があるのです。

論理力をつけるためにビジネススクールへ行くお金と時間の余裕のあるビジネスマ



ンは、多くはないはずで。

そういう方たちのために、手軽に、しかも楽しみながら論理力を鍛えるために本書を書きました。

しかも、論理力だけでなく、文学作品に触れることで、文学のおもしろさを発見し、感性まで磨くことができます。

それがこの「論理力ドリル」です。

### なぜ名作は論理的なのか？

昔から、文章がうまくなるためには、名作を写しとったものです。

名文を鉛筆でなぞることも有効な方法の一つです。名作の一字一句を大切にすることは頭の訓練にも効果的なのです。

本書は、さらに一步、二歩進んでいきます。

よく練った設問を解くことにより、名作、名文をもっと深く読みとることができ

贅沢な脳のトレーニングです。

ところで文学作品とは、実に感覚的なものだと、思い込んでいませんか？

もちろん、筆者の独自の世界観や鋭い感性が、そこにはあるのですが、それを不特定多数の読者に伝えようとするとき、いきおい文章は論理的にならざるを得ないのです。

そうした論理性が欠けたとき、その作品は独りよがりのものとなってしまいます。

たとえば、比喩がそうです。

比喩は、筆者の鋭い感覚に裏打ちされたものですが、その機能自体は論理なのです。

筆者が表現したいことは、たいていは人の心の奥底にある言葉にはならない「何か」です。

そうした「何か」をつかみだし、不特定多数の読者に伝えようとするとき、筆者はそれを別のものに置き換えます。

それが比喩です。

そして、そこには「イコールの関係」が成立するのです。

古池や 蛙かわず飛び込む 水の音

芭蕉ばしやうの有名な句ですが、「蛙」「水の音」は、芭蕉の胸中奥深くにある言葉にならない  
い「何か」なのです。

その抽象的な「何か」を具体的な「蛙」「水の音」という言葉でいい表しています。  
つまり、

「芭蕉の胸中奥深くにある言葉にならない何か」  
＝  
「蛙」「水の音」

という論理的关系が成り立っています。

このドリルでは、珠玉の名作を一つ一つ扱っていきます。

評論をはじめとする論理的な文章を解明していくことは簡単ですが、今回はあえて文学作品を材料に問題をつくりました。

まずは、情緒的な文学作品の中にも論理が確かに存在することに気づいてもらいためです。

言葉の使い方を知熟するためには、やはり最高の文章と真っ直ぐに向き合わなければなりません。

そして、トレーニングはおもしろくなければ長続きしません。

扱う文学作品は、芥川龍之介あくたがわりゅうのすけの『蜜柑』、葉山嘉樹はやまよしきの『セメント樽だるの中の手紙』、太宰治だざいおさむの『魚服記』、夏目漱石なつめそうせきの『夢十夜』です。

今までこういった作品を読んでも、どこが素晴らしいのか分からなかった人も、本書によって文学の正確な読み方が分かり、そのおもしろさを十分に味わうことができます。

論理とは、日本語の規則にしたがった使い方、その使い方には大きく分けて二つ

あります。

- ① 一つの文の規則をつかみ、文と文との論理的關係を把握する。
- ② まとまった文章の論理性を把握する。

本書は「入門編」として、①の問題を中心に構成しました。

②に関しては、もっと難解な文学作品や評論問題などを使ってトレーニングする必要があるあります。

では、あなたの論理力や感性を飛躍的に高めるトレーニングを、じっくりと楽しんでください。

## ◆本書の使い方

本書では、問題を解くだけで論理力がつくように構成されています。

ですから、第一問から、そのまま素直に問題を解いていってください。

なお、一見文法的な説明がしばしば登場しますが、ここで扱っているのはあくまで論理であって、受験に必要な文法的知識ではありません。

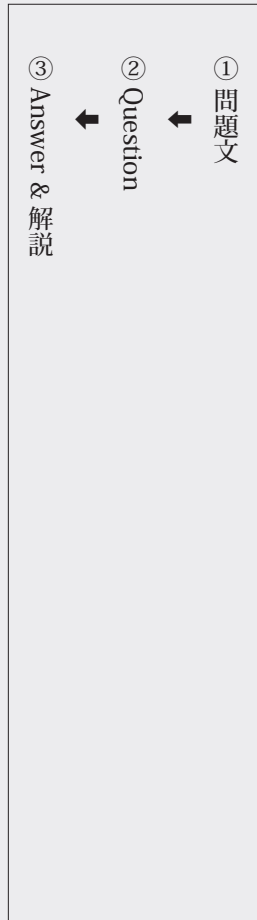
日本語の論理に習熟するには、日本語の規則をしっかりと理解しましょうということなのです。

たとえば、「主語を抜き出さない」という問題がありますが、単語・文節・語句のどれで抜き出すのかなどは、ここではあまり重要ではありません。

それは文法的な問題で、あなたの頭の論理的なトレーニングにとっては不要です。

そういった意味では、あまり肩肘かたひじを張らずに、気楽に楽しむことを大切にしてください。

全部で48の場面があり、



の順番になっています。

基本的には親しみやすく、奥深い作品を選びました。まずは、簡単なものからトレーニングを始めましょう。

でも、文章が簡単で読みやすいからといって、その作品を正確に、深く読めたかといったら、そうとは限りません。

ゆめゆめ油断しないでくださいね。





## もくじ 頭がよくなる！大人の論理力ドリル

### プロローグ

†なぜ論理力が頭を鍛えるのか？ 3

†全国で成果を出している論理エンジンとは？ 5

†能力を最大限に発揮させる道具とは？ 6

†簡単トレーニングで論理力が鍛えられる 8

†なぜ名作は論理的なのか？ 9

◆本書の使い方 14

第一部

日常の中で

論理力を磨く

\*論理エンジンの6つのルール

† 主語と述語で要点をつかむ \*論理エンジンのルール① 22

† 言葉のつながりを見る \*論理エンジンのルール② 23

† 文と文のつながりを見る \*論理エンジンのルール③ 25

† イコールの関係を見る \*論理エンジンのルール④ 27

† 対立関係を見る \*論理エンジンのルール⑤ 29

† 因果関係を見る \*論理エンジンのルール⑥ 31

\* SCENE 1\_12



第二部

『蜜柑』

芥川龍之介

† 『蜜柑』を読む前に知っておこう

34

第三部

『セメント樽の中の手紙』

葉山嘉樹



† 『セメント樽の中の手紙』を読む前に知っておこう

76

\* SCENE 13\_21

あとがき

203

第五部  
『夢十夜』  
夏目漱石

† 『夢十夜』を読む前に知っておこう

168



\* SCENE 41\_48

\* SCENE 22\_40



第四部  
『魚服記』  
太宰治

† 『魚服記』を読む前に知っておこう

106

装幀・イラスト 河村 誠  
本文デザイン・DTP フォレスト出版編集部